

北海道札幌視覚支援学校

学校運営協議会通信

令和8年2月3日開催



今回の出席者

外部委員	6名	
内部委員	2名	
事務局	6名	
オブザーバー	3名	合計17名



今年度も、
たくさんのアイデア
をいただき、ありが
とうございました!

TOPIC 01

教育活動の充実に向けた取組

蛸谷教頭からの報告

1. 「本物」に触れる教育活動の充実
2. 全国盲学校フロアバレーボール大会の成功

TOPIC 02

学校評価の結果について

坪川副校長からの報告

評議員の方々からのご意見は、資料を参照ください!

TOPIC 03

「誰もが『ここにいたい』と思える地域・学校づくり」

3グループに分かれての討議!

TOPIC 01

教育活動の充実に向けた取組

1. 「本物」に触れる教育活動の充実

今年度も外部機関と連携し、体験型の授業を多く実施しました。

- ・食育授業（北海道ぎょれん・JA新はこだて・らっきょ）：ホタテの殻剥き、鮭の感触体験、スープカレーの食材学習などを通じ、給食での喫食意欲向上につなげました。
- ・コンサドーレ札幌サンタ隊：バドミントンチームの選手が来校し、実技体験や交流を行いました。試合に負けて元気がない選手と監督に、子ども達が「応援ダンス」でエールを送りました。
- ・専攻科の外部講師による授業：実技も踏まえ、専門的な指導を受けました。
- ・PC操作指導：希望がある生徒を対象に、札幌チャレンジドさんからの指導を受けました。

2. 全国盲学校フロアバレーボール大会の成功

8月に「北海きたえーる」で開催された本大会では、本協議会でのアイデアが形になりました。

- ・わかりやすい大会運営：札幌龍谷高校放送局と連携した「実況解説」、YouTube配信を実施し、全国へ情報を発信しました。
- ・地域との連携：近隣大学の学生や保護者など総勢72名のボランティアにご協力いただきました。

TOPIC 02

学校評価の結果について

学校運営協議会委員の皆様の評価から...

1. 成果が見られる内容

①教職員の対応・信頼関係

教職員の丁寧な対応が、幼児児童生徒、保護者の安心感につながっている

②安心・安全な教育環境

見え方への配慮された施設設備、個人情報保護、給食の提供は評価されている、

③指導や支援、授業の内容

視覚障がいの専門性、将来に役立つ指導・支援

2. 改善が必要な内容

①情報共有、情報発信の課題

1.学校の取組や仕組みが、職員全体に十分共有されていない(「わからない」の多さ)

2.非常時対応(災害・不審者・感染症等)やPTA活動が保護者に理解されていない

②教職員の働き方の課題

ここ数年の継続課題であり、校務DXが進んでいない、働き方の工夫とやりがいの実感

③少人数の否定的意見への対応

・満足度や信頼(人権、相談)、支援計画の理解

今後の課題と重点目標は、次の4点

①主体性を育てる授業づくり

②寄宿舍における心理的安全性の確保と連携強化

③学校内外への情報発信の強化(HP・SNS等)

④校務DX化による業務改善

教えて！ 学校のこと Q&A

今回は、委員の方よりご質問を受けました！

Q. 寄宿舎はどのような役割の場所ですか？

そもそも寄宿舎はどのような位置づけの場なのか。警察学校や宝塚のように規律を学ぶ場なのか、単なる生活支援の場なのか、あるいは人員配置基準はどうなっているのか。できることとできないことがあると思うので、位置づけを教えてください。

A. 副校長

寄宿舎を設置している主な理由は、遠方から通学する生徒の通学保障です。自宅から毎日通学することが困難な生徒が、寄宿舎で生活しながら学校に通えるようにするためです。

また、特別支援学校においては、生活能力の向上も寄宿舎の目的の一つである。視覚障害のある児童生徒に対し、食事、排泄、身の回りのことなどの日常生活に関する指導を行い、将来的な自立や社会参加に必要な力を身につける場となっています。

人員配置については、寄宿舎生の人数に応じて配置されているが、本校の場合、視覚障害のある生徒が在籍していることから、緊急時の対応等も考慮した人員配置をしています。

また、土日は閉舎している学校もあるが、本校では部活動への参加や遠方から通学する生徒への対応のため、土日も開舎しています。

寄宿舎指導員は教員免許を有しているわけではないが、寄宿舎指導員の採用試験に合格した職員が配置されています。

TOPIC 03

「誰もが『ここにいていい』と思える地域・学校づくり」

～目立つ活躍だけでなく、それぞれの「居場所」と「役割」を見つけるために～

「成績優秀」「スポーツ万能」といった評価軸だけでなく、多様な背景を持つ子供たちが地域や社会でどう輝けるかについて、3つのグループで話し合いました。

【グループ1】「頑張らなくてもいい場」の必要性

社会全体が「就職・自立・頑張れ」となりがちですが、子供たちが安心して羽を休められる「頑張らなくてもいい場」も必要ではないでしょうか。

盲学校は、社会に出るための力をつける場であると同時に、当事者が安心して過ごせる温かい「ホーム」であり続けることが大切です。

【グループ2】地域を変える学校の力

「ほめほめノート」の提案：生徒同士が良いところを見つけ合い、掲示する仕組みづくり。
地域への貢献：生徒が利用することで、バス会社や近隣スーパーが「視覚障害者に優しい企業」へと成長し、それが地域のブランドになる。学校の存在自体が地域を優しく変えていくという視点も大切です。

【グループ3】失敗を許容し、人を育てる視点

企業経営の視点から、「人と事（こと）を分ける」重要性が語られました。失敗した時に人格を否定するのではなく、「何がうまくいかなかったのか」を可視化し、できるようになるまで待つ姿勢が、その人の居場所を作ります。

頭ごなしに怒らず、改善点をオープンにしていく環境づくりが、離職を防ぎ、自己肯定感を育みます。

編集後記

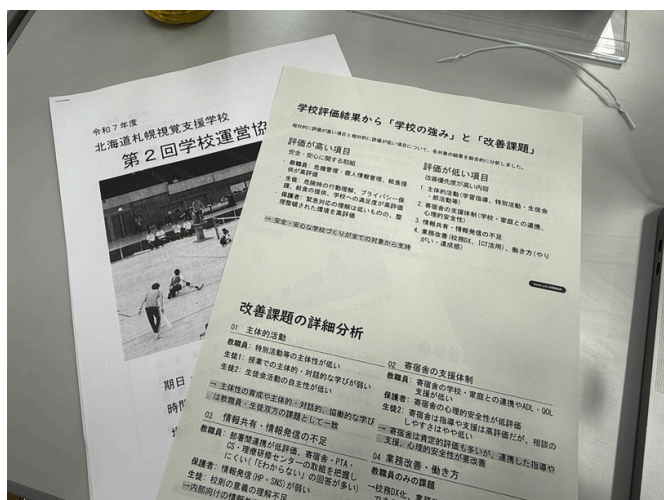
今回の協議では、「評価」や「成果」だけでなく、子供たちが安心して存在できる「居場所」の重要性が再確認されました。学校だけでなく、地域全体で子供たちを温かく見守り、それぞれの良さを認め合う社会づくりに向けて、今後も連携を深めてまいります。

今年度も、教務部、支援センター一部、進路指導部の先生に参加していただきました！

ありがとうございました！！

毎回、同じ先生が参加しても良いのですが、外部の方の意見を聞くことができる貴重な機会ですので、次年度は、より多くの先生方に、直接学校運営協議会に関わっていただき、委員の皆様の生の声をお聞きいただける機会を作っていきたいと考えています！

また、直接学校運営協議会の方からいただいた意見や先生たちのアイデアを日頃の教育活動に活かし、より地域に根ざした学校になるよう、ここからの次の10年に向けて取り組んでいきましょう！



次年度の予定

令和8年6月9日（火）
→ロックの日

令和9年2月9日（火）
→にくの日

です！